

メール: g03063@shugiin.go.jp

自立と共生!

たぐましい日本!

No. 173号

民主党 中川正春の 永田町かわら版

2002年10月1日

〒100-8981 千代田区永田町2-2-1 衆議院第一議員会館 428号

TEL 03-3508-7128

FAX 03-3508-3428

○中国北京にて

憲法調査会の視察報告

憲法調査会の海外調査に加わって、イギリスとアジア諸国をまわっています。

民主党の代表選挙が終わった9月23日の夜に出発して、2週間の長旅でした。その間、幹事長人事など党のゴタゴタをNHKの国際放送で聞きました。東京に電話するたびに、途中で調査を打ち切って帰らなければならないかと、何度も心配しました。何とか落ち着いたようですが、これからが大変です。

今度の旅は、全くの駆け足での調査になりましたが、多くのことを考えさせられました。

イギリスは、成文憲法のない国です。ブレア政権は、長い伝統に基づいて運営してきた貴族院の大改革をしています。貴族と名のつく人々が、何代にも渡って継承してきた議員の資格(1200人余り)を、剥奪される事になりました。代わりに、メイジャー前首相や、社会、科学などでの国家的功労者が一代限りの貴族院議員として役割を増しています。尋ねてみ分かったことですが、選挙で選ばれる下院と違って、貴族院議員は、無報酬なのです。

タイでは、プミポン国王がいかに国民の尊敬を集めているかが、実感できました。汚職などの権力腐敗で政権が行き詰まると軍事クーデターでひっくり返す。しかし、軍事体制では長続きしないから、そこに国王が仲裁役として真中にはいって、新しい文民統制の形をつくる。アブドラ国王のような英明君主であれば、この役割が担えるが、息子ではどうも不安だと言う事らしいのです。アメリカやイギリスの大学で訓練を受けてきた優秀なテクノクラートが、官僚の中に育っています。

シンガポールは、偉大な指導者、リ・カンユウの都市国家です。貿易技術立国を海外からの資金投資を前提に確立するために、すばらしい環境で、安心してビジネスができる街をつくる。その元になるのが、ア

し、一方で党は、学者や弁護士、著名な文化人など優秀な人材を議員としてリクルートしているようです。街はガーデン・シティ(庭園都市)で、緑と近代的な都市建築の調和がいかに美しい。憲法が、生活の隅々まで規定しています。アジアの価値観を守ろうと言うスローガンです。

中国の北京にも入りました。11月に予定されている共産党大会では、江沢民が続投するのか、胡錦濤や曾慶国などの若い世代に交代するのか皆が注目しています。1980年代から改革開放を憲法にも反映させました。「社会主義的自由経済」という言葉が、この国の憲法に明記されています。「もともと社会主義の定義は、計画経済、私有財産の否定と共産党の一党独裁だったと思う。しかし、改革解放後の中国に残ったのは、共産党の一党独裁しかない。ここでいう社会主義とは、何を意味するのか。」と意地の悪い質問をしました。中国の憲法学者はニコツとして、「実は、正直、私達も分からなくなってきたのです。」と言います。こんな応えがかえってくる中国は、確かに変わって来たと思います。

最後に**韓国**です。この国に学ぶところが、最近多くなってきました。今回は、憲法裁判所の機能と、人権委員会設立の背景を主に調べました。日本の最高裁は、憲法9条の解釈や、選挙区の一票の格差などは、政治的問題だから国会で議論すべきだと言って逃げます。この韓国では、どのような政治的テーマであっても違憲であるものは、ハッキリ結論を出しているようです。その上で、憲法に従うのか、それとも憲法を改正する提案を国民にするのか、国会が議論する。大事な事です。

沢山の国を回って、改めて反省したこと。日本は、どうしてこうも頭が固くなってしまったのだろうと言う思いです。世界の変化は目覚ましい。これまで発展途上だと思っていた国々が、一気に新しい経済システムに適應して、人権や、環境、知的所有権などの人類社会の目標を憲法に掲げています。安

ジァ的儒教精神だ。憲法もこと細やかです。社会全体の目標がハッキリしています。民族バランスを維持するために、グループ一括選挙をします。一つの選挙区で、あらかじめマレー人やインド人を中に入れた4、5人のグループで票を競い、勝った方が全てをとる。結果、人民行動党の一党独裁です。しか

全保障でやるべき事もハッキリしている。「日本は、どうするんですか。」周辺諸国が逆に、この問いかけを私達にしている。皆が、日本のこれからの生き様について、その決断を注目しているのです。

中川正春